

米国 CPI 統計はインフレ環境の安定を示す(15年7月消費者物価)

発表日：2015年8月19日(水)

～PCEデフレータの下振れを示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価 (Consumer Price Index)

	消費者物価		コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア
	総合											
14/12	▲0.330	(+0.8)	+0.059	(+1.61)	▲4.7	+0.2	+0.2	▲0.8	▲2.8	+0.4	▲0.2	+0.2
15/01	▲0.680	(▲0.1)	+0.178	(+1.65)	▲9.7	▲0.0	+0.1	+0.3	▲5.0	▲0.0	▲0.1	+0.3
15/02	+0.217	(▲0.0)	+0.157	(+1.70)	+1.0	+0.2	+0.2	+0.3	+0.8	+0.0	+0.2	+0.1
15/03	+0.236	(▲0.1)	+0.227	(+1.75)	+1.1	▲0.2	+0.1	+0.5	+1.1	+0.3	+0.3	+0.2
15/04	+0.103	(▲0.2)	+0.256	(+1.81)	▲1.3	▲0.0	+0.2	▲0.3	▲0.3	+0.7	+0.1	+0.3
15/05	+0.445	(▲0.0)	+0.145	(+1.72)	+4.3	+0.0	+0.0	▲0.5	+2.7	+0.2	▲0.1	+0.2
15/06	+0.319	(+0.1)	+0.179	(+1.76)	+1.7	+0.3	+0.2	▲0.1	+1.0	▲0.2	▲0.1	+0.3
15/07	+0.132	(+0.2)	+0.132	(+1.80)	+0.1	+0.2	+0.2	+0.3	+0.0	+0.1	▲0.1	+0.2

(注) 括弧内は前年同月比

**7月の総合は前月比
+0.1%、コア指数
(コアインフレ)は
前月比+0.1%**

15年7月の消費者物価(総合)は、前月比+0.1%と市場予想の同+0.2%を下回った。エネルギーがガス・電気、燃料油の下落などにより同+0.1%(前月同+1.7%)、食料品が同+0.2%(前月同+0.3%)と減速したうえ、エネルギー・食品を除く消費者物価(コアインフレ、コア指数)がドル高の効果もあり同+0.1%(同+0.2%)と市場予想の同+0.2%を下回った。

コアインフレを商品(財)・サービスに分けると、商品価格が前月比▲0.1%(前月同▲0.1%)と下落したほか、サービス価格が同+0.2%(同+0.3%)と小幅鈍化した。財では、衣服が上昇に転じたものの、競争の激しい新車が同▲0.2%、中古車が同▲0.6%、テレビなど余暇商品が同▲0.3%と下落した。サービスでは強い観光需要を背景にホテルの宿泊費が大幅に上昇した一方で、6月に前月比+0.4%と高い伸びとなった賃料、帰属家賃がともに7月に前月比+0.3%と鈍化した。また、航空料金が燃料費の下落等により前月比▲5.6%と大幅な下落となった。

コアインフレのモメンタムをみると、7月は3ヵ月前対比年率+1.8%(前月+2.3%)、6ヵ月前対比年率+2.2%(前月+2.3%)と鈍化、低い伸びにとどまっており、短・中期でコアインフレの上昇モメンタムは低く抑えられている。

前年比では、7月の総合指数が+0.2%、コア指数は同+1.8%と安定を示した

前年比での7月の消費者物価動向をみると(以下、前年同月比)、総合が+0.2%(前月+0.1%)と市場予想と一致した。食料品が+1.6%と鈍化し、エネルギーが▲14.8%と大幅に低下した。悪天候の影響が弱まり、食料品の伸びが鈍化したほか、エネルギーは原油価格などの下落によって押し下げられている。一方、コア指数は7月に+1.8%(前月+1.8%)と市場予想通りとなった。また、より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.6%(同+1.6%)と変わらず、低位で安定している。

7月の消費者物価統計では、総合指数、コア指数がともに市場予想を下ぶれ、インフレ圧力が抑制されていることを示した。この結果から、7月のPCEデフレータが下されると予想され、9月FOMCでの利上げ観測は一段と弱まる公算が大きい。